

害虫の発生に注意してください！

秋まきおよび初冬まき小麦では既に出穂～開花期を迎えています。春まき小麦でも、まもなく出穂が始まる見込みです。

6月上旬以降、穂や葉に害虫（ハモグリバエ等）の寄生が確認されており、今後も数日間はまとまった降雨が見込めないため、発生量が増加するおそれがあります。

赤かび病の防除を開始している場合は、防除時に殺虫剤を混用してください。

(1)アブラムシ類

早い時期に寄生して子実が吸汁されると、千粒重および歩留りが低下します。

1穂当り7～11頭（寄生穂率が45%以上）寄生すると減収しますので、出穂後に防除を実施して下さい。

(2)ムギクロハモグリバエ

幼虫が、葉先から中央に向かって葉肉内に潜って食害し、成長に伴い大きな袋状の食痕となります。成虫は、新葉の葉脈に沿ってすじ状の掻き傷を作ります。

出穂前に、成虫による掻き傷や、幼虫による著しい潜入痕が目立つ場合は、赤かび病防除前に防除を実施して下さい。

赤かび病防除を開始している場合は、アブラムシ類との同時防除で対応可能です。

【防除薬剤例】（登録内容はR1.6.10現在）

対象害虫	薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期	使用回数
アブラムシ類	エルサン乳剤	有機リン	1,000倍	収穫7日前	4回以内
	スミチオン乳剤	有機リン	1,000倍	収穫7日前	1回

※「エルサン乳剤」はムギクロハモグリバエ・ムギキモグリバエ、「スミチオン乳剤」はムギキモグリバエにも登録があります。

今年は風の強い日が続いていますので、
周辺作物へ薬剤が飛散しないよう十分に注意してください。